

ハーマニー

第 35 号

発行日 平成23年11月25日
財団法人 秋田県民間社会事業福利協会
秋田市旭北栄町1番5号 ☎(018)864-2703
編集発行人 三浦憲一

今日も
楽しかったね!



「帰りの会」で、子ども達に絵本を読んでいます（中央の写真）。最後に成田先生が1人ひとりに声をかけてお別れします（右上の写真）。

10月中旬、北秋田市社会福祉協議会が指定管理で受託している児童デイサービス事業所「もろびこども園」を訪問しました。

この施設は、平成5年10月に言葉や運動の発達に心配のある就学前の子どもに療育を行うことにより、発育や発達の促進を図るこ

とを目的に開設されました。その後、15年には支援費制度、18年には障害者自立支援法による「児童デイサービス」に移行しました。

利用定員は毎日10人で、現在25名が登録しています。子どもたちは保護者と一緒に週1回から2

回、曜日を決めて通園しています。対象は北秋田市とその周辺地域の子どもたちで、ほとんど保育園や幼稚園と併用しています。

今回は、開設当初から療育に関わってきた伊藤清貴園長と成田久美子児童指導員にお話を伺いました。

主な内容 Contents

施設・会員紹介	1～2	ほほえみカード指定店紹介	6
講習会受講者の声他	3	会の現況・公益法人制度改革	7
東日本大震災被災地支援報告	4～5	栄養士さんのおすすめ料理	8
会員コラム 東西南北他	6	プレゼントクイズ	8

おじゃまします。福利協会です。

子ども一人ひとりが主人公の療育

連携をとりながら

伊藤園長は、大学卒業後、北秋田市にある社会福祉法人県北報公会の知的障害児施設に勤務して外来療育等に携わってきました。

平成5年、厚生省から認可を受けた旧鷹巣町による通園事業「もろびこども園」開設時に成田先生と共に今の施設に異動しました。

伊藤園長によると、現在北秋田市では乳幼児健診などで支援が必要と思われる乳幼児に対して、「乳幼児相談事業」を保健センターの事業として行っており、そこに福祉事務所家庭相談員と共に携わっています。そしてより密度の濃い療育を希望する親子が、同園の療育支援を受けるシステムができています。北秋田市における療育のメリットは、子どもの状況把握と関係機関との連携がとれて、早い時期からの支援ができることです。さらに小学校入学後も学習や学校生活などに課題などがある場合、保護者や教師を交えた支援も行える点です。

伊藤清貴園長



お母さんも一緒に

園では、一人ひとりの発達に沿った個別指導計画を作成し、それに基づいた療育を行なっています。一日の流れとして音楽遊び、粘土遊びなどのグループ指導と個別指導があります。個別指導は乳幼児教育プログ

ラムに沿い、子どもの発達に応じた教材で行われます。子どもたちがより良い成長ができるよう、お母さんと一緒に子どもたちの支援をしています。また、療育支援だけでなく、育児不安や悩みを抱えるお母さんたちへの支援も欠かせないものとなっています。

誰もが平等に

長年療育に携わっている課題は、子どもたちにコミュニケーション能力や社会性をいかに身につけさせることができるのか、運動能力の改善をどのようにすれば図れるのかなどありますが、そんな時はお母さんたちはもちろん、職員の協力を得ながら対処していると話されていました。

児童デイサービスは全国で1,100ヶ所以上ありますが、秋田県では4ヶ所と少ないのが現状です。子どもたちが地域で生活ができるためにも、乳幼児期からの療育が、どこに住んでいても同じように受けられるようになってほしいと話してくれました。

自立に向けて

成田先生は、伊藤園長と同様、県北報公会で障害児施設、児童養護施設、保育園といろいろな種別で勤務してきました。その時の保育園での経験が今の職場で活かされていると言います。

子どもと接する時は、子どもの目線に合わせ、いろいろな活動を通して全面発達を目指します。そして、子どもの意欲を喚起しながら自立に向けた取り組みを幼児期から積み重ねていきます。

また、ご家族に寄り添い、子育ての大変さを共感しながらも子どもを

受け止め、前向きに子育てしていけるよう支援していきます。その中で“子どもにとって何が大事なのか”共通理解を図りながら一緒に歩んでもらうことに難しさを感じることもあるようです。



成田久美子児童指導員

お母さん達の顔に笑顔が

通園当初は不安で暗い表情だったお母さんたちも、通園を重ねていくと表情が変わってきます。子どもを理解しながら成長が見えてくると、お母さんにも安心感が生まれ表情が明るくなりますし、育てにくさを持つ子どもを育てているお母さん同士だからこそ共感し合えるものがあって、絆が強くなっていきます。園で築いた支え合いの気持ちを大事に、卒園後も関係を保ってほしいと言います。

地域とともに

成田先生の願いは、地域の方々はこの施設を理解してもらい、いろいろな個性を持った子どもたちの存在を受け入れてもらいたいと言います。地域に密着して、住民の方たちに支えられ、共に歩いていくことが大事なことだと話してくれました。

お二人から、仕事以外にも子育て支援に関わっていることを伺い、周りの方と一緒に子どもの幸せを願い療育していることを感じました。

お二人に質問しました。

Q.1 今、子育てをしている方に一言アドバイスをお願いします。

★伊藤園長
子育ては大変なこともあります、楽しみになるような子育てをしてほしい。

☆成田先生
子供は宝物!どんなに忙しくても5分でもいいから向かい合う時間を作り、言葉をかけて遊んでほしい。



Q.2 プライベートでは何をしていますか。また今後は何をしたいですか。

★伊藤園長
休日は夫婦で旅行を楽しんでいます。時間があれば遠くまで足を伸ばしてみたい。また、秋田県自閉症研究会を主宰しているので、会の活動も広めていきたい。

☆成田先生
室内でたくさんの観葉植物を育てています。また、今も参加していますが、いろんな子育て支援事業に関わってきたい。

平成23年度、福利協会主催で講習会を3企画開催しました。受講者の感想を紹介します。

接遇講習会

6月24日(金) 秋田キャッスルホテルで41名が受講しました。

マナーを深く知る

山王平成会(秋田市)
かわしり保育園 保育士

高山 華純

社会人3年目となり、今一度自分のマナーについて、改めて見直したいと思い受講しました。

福祉サービスの心構えから電話応対に至るまで幅広く学ぶことができました。自分では気付かないことも、周りからの意見や指摘、実践を通して知らなかった部分を知ると同時に、自分自身のマナーを見直す機会になりとても参考になりました。

講習の始めに「マナーは心である」という講師の言葉を胸に、実践で学んだことを忘れずに、今後はレベルアップした接遇をしたいと思います。



電話応対の実技。右側が私です。

メンタルヘルス講習会

6月30日(木)~7月1日(金) 秋田キャッスルホテルで36名が受講しました。

風通しの良い職場

北秋田市社会福祉協議会
居宅介護支援事業所

管理者 会田 恵子

ストレス社会の中、メンタル不全是身近な問題であることを実感しました。2日間の研修では、グループワークやロールプレイを行い、他者との視点の違いから、自分自身に対する新たな発見や気づきを深めることができました。

また、ストレスとは何かを学び、自分に合ったストレス解消法を見つけることができました。その中でも意識して視点を変えて物事を考えることで随分と張り詰めていた何かが解きほぐされたように感じました。

そして、メンタルヘルスは個人だけの問題ではなく、職場全体でも取り組み、風通しの良い職場の環境作りが大切だと実感しました。



仕事を依頼された時、どのように対処するかのロールプレイです。

広報紙講習会

7月26~27日(火・水) 秋田県社会福祉会館で27名が受講しました。

読み手の立場になっ

象潟健成会(にかほ市)
特別養護老人ホーム蕉風苑

介護職員 佐々木 真樹

先輩方に教えていただきながら、広報作成に関わり2年目になります。施設広報と言っても見ると作るのでは、こんなに違うものかと思いきらされて行き詰まりも感じていました。

今回、受講してレイアウト・編集方法など直ぐに役立つ技術を学び、作成面でいろいろな課題を見つけることができました。

また、講師の「相手に読みたいと思わせることが大事だ」という言葉が印象的でした。読み手に関心を持たせ、簡潔に分かりやすく、親しみやすい紙面作りを心がけ、常に向上心を持ち、新たな気持ちで取り組んでいきたいと思っています。



学んだことを活かしていきます。

グルメを楽しむつどい

“おいしい”に感謝

大館市社会福祉事業団
養護老人ホーム 成章園

主任相談員 成田 真紀子



前期・後期と分けて県内9会場で開催し、延人数304名の方が参加しました。前期大館会場参加者の感想を紹介します。

「グルメを楽しむつどい」の案内をいつも見ても「行って見たい」という思いだけで終わっていました。今回はお店の名前(レストラン アンシャンテ)を見て決断し仲間を誘って参加しました。ランチやコーヒータイムには何度か行っていましたが、コース料理は初めてなので期待でいっぱいでした。

お料理の説明の後、季節の地元の食材がシェフの手で生まれ変わった一品一品に舌鼓。中でもアカシアのシャーベットは絶品でした。また、お店のスタッフのおもてなしにこのひとときでリフレッシュできました。皆様もぜひ足を運んでみてください。ごちそうさまでした!!この企画に一礼です。

東日本大震災 被災地支援の報告

秋田県からも、それぞれの種別協などから多くの方が被災地に行って支援を行いました。岩手県、宮城県での支援内容をご紹介します。

ガレキと 呼ばれる思い出

潟上市社会福祉協議会

ボランティアコーディネーター 鎌田 天嗣

5月1日から6日の間、岩手県大船渡市災害ボランティアセンター後方支援活動に参加しました。大船渡の沿岸部に到着すると、言葉を失うほどのガレキに覆われた街の光景が広がっていました。その中に自分の足で立ったことのある人は、きっと人の世のはかなさを感じたに違いはないと思います。ましてや、そこにずっと住んでいる方々の心情は計り知れないと思いました。

ある日、「庭に流されて、壊れたタンスを小屋まで運んでほしい」とのボランティア活動依頼がありました。ボ

ランティア参加者からは「壊れた?」との疑問もあったようですが、大船渡市社協の方は快くその依頼を受けました。私たちは、津波で流された物をガレキと総称して呼んでいますが、そのおばあさんにとっては大切な思い出のタンスだったに違いありません。おばあさんは何度も、ボランティアの方々に「ありがとう」と繰り返したそうです。何か大きなくりで、ガレキと呼ばれる物も、実は被災した方々の「思い出の集まり」だと実感した瞬間でした。「被災地に寄り添う」と頻繁に言いますが、実際にその場に行かなければ、分からないことが沢山ありました。

災害は時の経過とともに、徐々に心の片隅に追いやられてくる傾向がありますが、復興までは長い年月を必要とします。その間にも、ボランティ

ア活動の内容も多様化して、様々な分野のボランティア参加者を必要としています。きっとあなたにもできる何かがあるはずです。



岩手県大船渡市須崎川沿いの様子
(5月1日)



愛知県社会福祉協議会、他の皆さんと一緒に。黄色のつなぎ服が私です。

備えの大切さ… を思う

一羊会 杉の木園 (秋田市)

管理者 進藤 香代子

(きょうされん秋田支部事務局長)

初めて被災地入りをしたのは地震後10日程たった頃。そこで目にしたのは、殆ど壊滅状態の海岸近くの街並み、港町として賑わっていた「宮古」の瓦礫の山と汚泥にまみれた変わり果てた姿。車で走れば走る程その被害の大きさと被災された方々の悲しみの深さを思い言葉もありませんでした。

4月に入り「きょうされん秋田」として岩手県への被災地支援が本格的に始まりました。会員施設であるサンワーク六郷、五輪坂ひなげしの里、

玉の池ワークハウス、さくら園、虹のいえ、杉の木園からの協力を得、職員(施設長自らも)の派遣体制を整え、日帰り、2泊3日、4泊5日等の形を取りながら7月末まで述べ100名を超える人材派遣を行いました。現地では大阪、北海道、青森、埼玉、神奈川などのきょうされんの仲間と共に、障害を持った方達の避難所回りをしている聞き取り調査、被災作業所の再開に向けた支援(利用者支援)、支援物資運搬、炊き出し等ニーズに応じての支援をして来ました。

半年が経過し復興は進んでいるように見えますが、当初と違った問題、課題も見られ被災地支援の有り様の変化に対応出来る、息の長い支援が必要だと感じています。

「片道5時間かけて現地に入り、支援を行い、又5時間かけて深夜に

秋田に戻る」日々は、私達に変わらない日常に感謝することの大切さ、どんな状況下にあっても利用者と職員の生命と安全を災害から守る「備え」の必要性を教えてくださいました。



6月19日 岩手県山田町での炊き出しの様子



岩手県山田町にある特別養護老人ホーム。隣接する知的障害者施設も被災しました。

被災地支援活動に参加して

横浜市社会福祉協議会
東部訪問介護事業所
管理者 米谷 ゆかり



震災から、ちょうど1ヶ月後の4月11日から5日間、全国ホームヘルパー協議会からの派遣で、岩手県山田町の避難所で支援活動に参加しました。高校の体育館等で、600人もの方

ちが生活をしていました。私たちの活動は主の中で介護を必要としている方たちへの援助と、インフルエンザの患者さんたちへの食事の提供でした。全国から足を運んでくれた仲間たちと連携をとりながら、被災者の皆さんに、たくさんの言葉掛けと傾聴を心掛けて支援を行ないました。

また、私達と同じように全国から集まった医療チームによる仮設診療所、自衛隊による毎日の炊き出し・仮設風呂の提供、野外テントでの各地名産の食事の提供……。たくさんの方々の協力体制のもと、避難所の生活が支えられていました。

支援最後の日、お手伝いさせていた

だいた皆さんにご挨拶に回った時、一人のおばあさんが「あなた達にこんなに良くしてもらったのに、何もお返ししあげられなくてごめんなさいね」との言葉をいただきました。こんなに辛い状況の中でこんな温かい言葉をかけられる……。私もこんなふうに年齢を重ねていきたいものだと思いきや涙がこぼれました。

今回の活動で得た温かいたくさんの方々の「思い」を宝物にして、これからの仕事でお返ししていけたらと思いました。

支えは、人と人のつながり

大館圏域ふくし会
特別養護老人ホーム 長慶荘
介護職員 佐藤 菜里子



被災地ボランティア派遣の要請を受け8月4日から9日、岩手県大槌町の特別養護老人ホーム三陸園に出向きました。三陸園は高台に位置し建物の被害がなかったものの孤立した状態に陥り、救援物資も不足のまま職員と避難住民は施設内で1ヶ月間生活を共にしたということです。震災により職員不足で施設が機能しな

いことでの要請でしたが、派遣当時はだいたい施設内の状態は落ち着いてきていました。

また、大槌町の様子は震災から半年後でも海岸沿いに破壊された防波堤が横たわり道路が寸断され津波によっていびつに変形した橋や骨組みだけの建物が散在していました。派遣が決まって以来被災地の状況が想像できずでしたが、到着して見ただけの目に広がった荒涼とした光景は一生忘れることはありません。悲しみ、恐怖という感情、言葉もなく立ち尽くしていたことを今も思い出します。

今後、復興に向けて衣食住の確保、就労、就学の支援はもちろんですが、

住民の方々が孤立せず常に情報交換を行なえるコミュニケーションの場を設けることも重要だと思います。このような状況下こそ人とのつながりが支えとなるのではないのでしょうか。

今回の大震災で当たり前の生活がいかに幸せであるかを誰もが感じたと思います。被災地での支援は意義のあるものでした。今後は大震災、被災者のことを忘れずに日々の生活を大切に過ごしていきたいと思えます。



三陸園の下の沿岸部の様子

“ありがとう”の一言に励まされ

中央会 (由利本荘市)
特別養護老人ホーム ふるさと学び舎
介護職員 本間 勇也



支援の要請を受け、5月6日から1週間の短期間でしたが、宮城県石巻市鹿妻小学校と同僚4名で参加しました。

現地で津波にのまれ壊滅的となった状況を目の当たりにして、自然の力の大きさに驚愕するとともにこの度の災害

に遭遇された被災者の皆さんの心情はいかばかりかと心を痛めながら支援現場に向いました。

被災者は、毎日繰り返す余震と寒さの中、段ボールで仕切られた狭い空間で生活をしていました。そんな中、周囲に気を遣い体調を崩される方、運動不足から歩行困難となった方もおり施設介護では想像もできなかったことが現実としてあることに驚きました。とにかく理屈抜きにして心を込めて接することに全力を傾けました。支援している中で、津波にのまれながらも生還した人の話を聞き、震災時の悲惨な状況に涙が止まりませんでした。そのような被災者の皆さんは気づ知らずの私たち

を受け入れてくれただけでなく「ありがとう」の感謝の言葉を掛けて下さいました。あの惨禍を経験し、今なお過酷な環境で生活しているにも関わらず、他者を思いやる心に感動を覚えずにはられませんでした。

被災地で貴重な経験をさせていただいたことに感謝し、一日も早い復興を願い、私達からも「ありがとう」を伝えたいと思えます。



宮城県石巻市鹿妻小学校から50m付近の様子

会員コラム 東 西 南 北

安らぐひととき

鹿角市子ども未来事業団
平元保育園

青山 和代

年を増すごとに我が家の花鉢の数がどんどん増えて、冬は部屋いっぱいになります。

毎日、花への言葉掛けが通じて花が咲きました。そんな花に話しかけている自分、心が安らぐ時です。これからも花とともに生活していきたいです。



これからも楽しく

みなせ福祉会(湯沢市)
特別養護老人ホーム
シャイントピアみなせ

藤原 真由美

前号のハーモニーを読んで、日々時間内に仕事をやらなければという気持ちでいることに気付き反省しました。利用者にとって「家」となる施設で、そんな気持ちでの介護は失礼にあたると思ったからです。利用者の方が安心して生活できるように気を遣っていきたくと思いました。また、利用者から元気を頂くこともあり介護福祉士として楽しく仕事をしていきたいです。

ラジオからの贈り物

キッズハウスもりやま(五城目町)
五城目保育園

小玉 奈美

10年以上、応援しているアーティストのラジオを週1回聞くのが習慣になっています。この方たち、ラジオに出会わなかったら、今の私はいません。

毎週、元気や勇気をもらっているの、子ども達にそれをおすそ分けできたらいいなあ……と、日々奮闘中です。



福利厚生センターのご案内

頑張っている私達には、充実した福利厚生が必要です。



○健康管理

健康生活用品給付
生活習慣病予防健診費用助成他

○慶事お祝い

結婚お祝い品贈呈(1万円の商品券)
出産お祝い品贈呈(1万円の商品券)
入学お祝い品贈呈(5千円の商品券)
資格取得記念品贈呈(5千円相当の記念品)
永年勤続記念品贈呈(5千~5万円相当の記念品)

○万が一の際

会員死亡弔慰金(60万円)
配偶者死亡弔慰金他

○資質向上

海外研修
接遇講習会
パソコン講習会他

○余暇活用

指定保養所
会員制リゾート施設他

○情報活用

ホームページ
ソウエルweb書店他

○生活サポート

特別資金ローン
特別提携住宅ローン

平成24年度 新規会員募集中!

未加入の法人におかれましては、来年度に向けて加入のご検討をお願いいたします。

掛金は一人当たり毎年度1万円です。詳しくは、福利協会事務局へお問合せ願います。

TEL 018-864-2703
FAX 018-896-7820

ほぼえみカード指定店のご紹介

優待内容

ソフトドリンク1杯サービス。1組全員に適用します。

高戦略性と快適フェアウェイが
魅力の18ホール

大野台ゴルフクラブ

北秋田市坊沢字小屋沢48-1
TEL 0186-62-4813
FAX 0186-62-3299

北欧の風薫る18ホール

秋田北空港クラシックゴルフクラブ

北秋田市米内沢字長野沢142
TEL 0186-72-5511
FAX 0186-72-5500



会の現況

第一種 制度

10月1日現在会員数 9,741人
 23年度加入者数 976人
 23年度退会者数 470人
 (1年未満退会者 43人)

23年度 退職金給付件数・金額
 470件 967,097,137円
 平均加入年数 10年3ヶ月
 平均給付金 2,057,653円

◆入会・退会・異動の届出は、毎月5日必着です。期日厳守をお願いします。

第二種 制度

10月1日現在会員数 684人
 23年度加入者数 150人
 23年度退会者数 34人
 (1年未満退会者 7人)

23年度 退職金給付件数・金額
 34件 5,023,635円

慶弔給付金(10月末現在)

死亡弔慰金	33件	650,000円
〔 会員死亡 配偶者死亡 被扶養者死亡 〕	6件	300,000円
	4件	120,000円
	23件	230,000円
災害見舞金	1件	26,000円
傷病見舞金	67件	670,000円
結婚祝金	99件	1,980,000円
出産祝金	139件	2,780,000円

◆事実が発生してから2週間以内の提出をお願いします。

◆各申請用紙は、福利協会のホームページからダウンロードできます。

会員貸付金(10月末現在)

52件	44,220,000円
〔 内訳 〕	50万円以下 23件
	60～100万円 14件
	110～150万円 9件
	160～200万円 6件

◆車購入資金、教育資金等まとまった資金が必要な時にご利用できます。原則として、申込書の受付は毎月末に締め切り、翌月の10日(10日が休日の場合は前日)に法人または事業所の口座に送金します。

◆「貸付金借受申込書」の様式が今年度から変更になっています。申請の際は、お間違えのないようお願いします。

「第二種退職一時金」制度のご紹介

加入対象

福利協会制度に加入していることが原則で、第二種退職一時金制度に加入を希望する会員(第二種制度のみの加入は不可)

加入申込み

毎年度、4月5日まで申込受付。
 (年度途中の加入は不可)

掛金と事務費

1口1万円。基本契約口数は5口以上15口以下の範囲。
 事務費は、1人年額1,200円

掛金、事務費の納入期日

毎年度、事務局が指定する日(5月中旬頃)

退会の手続き

毎月5日までの届出

給付

退職一時金のみで、給付利率は2%、元利積立方式。
 (但し、1年未満及び脱退の場合、給付はありません。)
 ※福利協会・機構制度・第二制度と3本目の制度としても活用できます。

福利協会と公益法人制度改革

法人の運営管理のあり方

「移行」手続きに大切な検討事項を
 ひとつひとつ点検中

一般財団法人(非営利型)へ移行する準備を進めている。申請時期は来年7月を目標。現在、新定款案を作成準備し、秋田県公益認定等委員会の認可を得ていくため、県の公益法人班に事前相談を始めている。

会が設立され53年が経過した。移行しても民間社会福祉事業の発展に寄与する目的は変わらない。長年築いてきた退職金制度や福利厚生事業は益々充実させて、社会福祉人材の確保と定着化への貢献は今後も求められる。

さて、一般財団法人になると主務官庁の監督がなくなる。このため法人の構成員である会員等による自主自立の組織が自らうまく統治していくために求められる事項は多い。前述の機関(評議員、評議員会、理事、理事会、監事)や機能役割など含め、資産運用・税制・会計・共済制度をとりまく法的課題等多くのテーマを改めて点検している。(検討内容は、機会を見て皆さまにお知らせします。)

栄養士さんの おすすめ料理

敬仁会 (潟上市)
特別養護老人ホーム 松恵苑
松橋 綾子



きりたんぼより手
軽な冬の定番人気メ
ニューです。松恵苑
では毎年、利用者さ
んの“だまこ鍋作り
会”が催されます。
せりの香りや地鶏の旨味がしみ込
んだ“だまこ”は絶品です。是非ご
賞味ください。



ある日の昼食風景です。

だまこもち

<材料 (4人分)>

- ご飯2合分 …………… だまこ30個位
- 鶏もも肉 …………… 200g
- 舞茸…………… 1パック(200g)
- ごぼう …………… 1本
- ねぎ …………… 2本
- せり …………… 2束
- しらたき …………… 1袋

<だまこ鍋用スープの材料>

- 地鶏がら1個 水1400cc
- 醤油140cc 酒200cc
- 砂糖大さじ2 顆粒だし、塩適量

<作り方>

- 1 大きめの鍋に水と地鶏がらを入れて煮立て火が通ったら、アクをよく取り除きながら30分程弱火にして煮て、だしをとります。
- 2 ごぼうはささがきにして水につけてアク抜きをします。鶏もも肉は一口大、ねぎは斜め切り、舞茸は手でち

- 2 ぎり、しらたきは5等分位に切りま
す。せりは根の部分も使うので、よ
く洗って3~4cm幅に切りま
す。
- 3 ご飯は、ボール又はすり鉢に入れ
て、すりこ木で粒が少し残る程度
につぶし、2~3cmの大きさに丸め
ます。
- 4 ①のだし汁に鶏肉、ごぼうを入れ、
鶏肉に火が通ったらアクを取り除
き、調味料を入れて味つけします。
その後、舞茸、しらたきを入れて、さ
らに煮込みます。
- 5 長ねぎを入れ、やや火が通った後
にだまこを入れて煮崩れしない程
度に煮ます。
- 6 最後にせりを入れてさっと火を通
す程度に煮て完成です。



松恵苑では、利用者の方が、ビニール袋にご飯を入れて、手でつぶしてだまこを作ります。

プレゼントクイズ

問
題

今回訪問した「もろびこども
園」は、〇〇デイサービスの
事業所です。〇〇に当てはま
る文字を入れてください。

ヒント：漢字2文字です

●応募方法●

専用ハガキにて応募してください。
(福利協会会員のみ対象)

- ◆プレゼント希望コースは必ず記入してください。
- ◆専用ハガキの裏面には、広報の感想や意見など自由にご記入ください。ホームページコラム欄に紹介することがあります。(氏名は公表しません)

●宛 先●

〒010-0922 秋田市旭北栄町1-5
秋田県民間社会事業福利協会
「ハーモニー」クイズ係

●締 切●

平成 24 年 1 月 7 日 (土) 消印分まで有効。
※当選者の発表は、応募締切後に賞品の発送をもちまして代えさせていただきます。

★このプレゼント企画は、福利厚生センターの事業支援を得ているものです。

A きりたんぼセット
コース (4人分)

5名様へ

白沢通園センター
TEL 0186-46-3775
〒017-0002 大館市白沢字白沢407-9

B 一泊2食付
コース 無料ご招待

2組4名様へ

八幡平ロイヤルホテル
TEL 0195-78-3311
〒028-7394 岩手県八幡平市松尾奇木 第1地割590-5

C クッキー詰め合わせ
コース

20名様へ

杉の木園
TEL 018-827-2310
〒010-0823 秋田市山内字上台15-2

D クッキー・パウンド
コース ケーキ詰め合わせ

20名様へ

南秋つくし苑
TEL 018-875-2115
〒018-1629 南秋田郡八郎潟町中嶋282-1

編 集
後 記

未曾有の被害を各地にもたらした東日本大震災。半年後、仙台市の沿岸に程近い被災地に行く機会がありました。その辺一帯は、住宅地であったにも関わらず、残っているのは、家の基礎部分だけでした。大津波で、長年営まれてきた人々の生活全てを根こそぎ流されたことを思うと胸が痛みました。復旧・復興への道のりは遠いと思いますが、私たちにできる支援を続けたいと思います。(H.K)